

2024年度 第3四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q1) 国際線事業におけるイールド・単価について、第3四半期の実績と今後の見通しを教えてください。

A1) [国際旅客]

- ・ 第3四半期は、燃油の影響を差し引いた実質イールドが前年に比べて低下したものの、第2四半期より高い水準で推移しました。
- ・ 第4四半期は、アジア・中国線の需給環境がやや悪化すると想定していますが、堅調な日本発業務渡航と訪日需要を中心に高単価需要を獲得しながら、イールドの維持・向上を図っていきます。

[国際貨物]

- ・ 第3四半期は、アジア・中国から北米向けの貨物需要が旺盛で、北米向け路線を中心に高単価で貨物需要を獲得しました。
- ・ 今後は、米国の関税政策等の影響を注視しながら、需要の変化に応じて積極的に高単価貨物を取り込むことで、単価の改善に取り組んでいきます。

Q2) 今回の業績予想修正について、営業費用が前回修正時より上振れている要因を教えてください。

- #### A2)
- ・ 今回の通期業績予想の修正では、航空事業において10月末にお示した修正計画から費用が260億円ほど増加しており、そのうち220億円は整備費用によるものです。
 - ・ 整備費用は、為替や整備機会の増加、受託整備の増加などの影響が含まれています。但し、受託整備の増加についてはそれに対応する受託整備収入も増額しています。

Q3) 来年度の「営業利益 2,000 億円以上」の目標の達成確度について、現時点でどのように考えていますか。

- #### A3)
- ・ 来年度は公租公課の減免措置の縮小などにより、費用が増加する見込みです。また、ボーイング機のデリバリー遅延や各種エンジンの点検の影響で、生産量拡大のための機材確保に苦慮しており、来年度の「営業利益 2,000 億円以上」は高い目標であると認識しています。
 - ・ 一方で、国際旅客については、中期経営戦略の想定よりイールドが高い水準で推移しており、稼働機が逼迫する中でも生産量を拡大することで、増益を目指していく方針です。また、国内旅客の単価向上による収支改善への取り組みや NCA 連結化の進捗状況をふまえながら、来年度の利益目標の達成を目指します。

以上